

事業活動実績報告書

施設名	明昭第二幼稚園
教育理念	○子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体とやさしい心、人とかかわる力、たくましさを育てていく。 ○子どもたちの主体性を大切に、一人ひとりの個性、発達に応じた遊びを中心とした援助・保育をする。
事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	野菜の栽培などを中心とした食育に重点を置いた保育
2 実施期間	令和 6年 5月13日 ～ 令和 7年 3月31日

3 取組概要	(取組日) 令和6年5月24日 ～ 令和6年6月24日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 3歳児が保育室前のプランターでピーマン、オクラ、枝豆の苗を1つのプランターに3株ずつ植え、栽培する。葉が育ち花が咲く様子、実がなる様子を観察する。成長を楽しみに観察し、6月24日に収穫する。色や形、大きさの変化に気づく。野菜の育ちを見ることで食への興味・関心が深まる。ピーマン、オクラはスタンピングに使用し、野菜の断面にも興味を持てた。絵本「やさいのおなか」も見て楽しんだ。枝豆は9月3日に収穫し乾燥させて、大豆として節分の豆まきのお守りとして使用。実の変化、活用を楽しんだ。 
	(取組日) 令和6年5月31日 ～ 令和6年7月26日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 5歳児3クラスでラッキー通り商店街メロン育て隊に参加、4鉢のメロンの苗を購入、(各クラス1鉢ずつと予備が1鉢。)地域の名人に指導を仰ぎ、栽培する。毎日、成長を楽しみに当番を決め、水をやる園児の姿が見られた。7月はじめに間引きしたメロンを切り、匂いを嗅ぐ。「きゅうりと同じ匂いだ」という声があがる。順調に育ち、4鉢とも大きさは様々だが、1玉のメロンが実る。7月の夏期保育の時に収穫。1個をクラスで分けて食べる。間引きした際のメロンとは異なり、実がやわらかく、甘味を感じることができた。立派に育ったメロンをおいしそうに食べる子どもたちの笑顔が印象的だった。メロンづくりに興味を持ち、地域の収穫祭に参加した親子もあった。 
	(取組日) 令和6年 5月13日 ～ 令和6年 6月28日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 5歳児での栽培活動。クラス(3クラス)ごとにトマトときゅうりを3株ずつ2つつプランターを使用し、苗から育てる。それぞれ当番を決め、水やり、世話をしながら観察する。葉やつるがのびる様子、花が咲き、実がつく様子を見守り、成長を楽しみに収穫を待つ。6月に入り、クラスごとに少しずつ収穫する。他クラスの野菜の成長を気にしたり、自分のクラスのものとは比べたりしていた。収穫後はクラスで少しずつ食べた。大事に食べるその姿は、育てたトマトやきゅうりに愛着を感じているようだった。 
	(取組日) 令和6年 6月13日 ～ 令和6年11月29日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 4歳児でお米作りに挑戦する。6月に秋田の農家より100本の苗が届く。発泡スチロールのトロ箱と土を用意し、2クラスで4箱ずつ使用して6月13日先生と子どもたち数人で田植えをする。他の子は観察する。毎月、農家からお米作りの現地の状況を写真で紹介した通信「あぐりっぴ」とクイズ付映像が届く。水の量に気をつけながら、子どもたちは稲の生育状況を毎日チェックする。10月には小さいながら稲穂となり、米の粒が見えてくる。11月29日に2階ホールで担任が稲刈りをする。育てた稲穂と農家から送ってもらった大きい稲穂のもみ殻からお米を子どもたちが剥いて出し、大きさを比べた。翌週に秋田の農家から送られてきたお米を炊いておにぎりをつくる。活動は別に記す。 

3 取組概要	(取組日) 令和6年 6月20日 ～ 令和6年 6月20日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 5歳児が屋上菜園で4歳児の時、3月4日に種植えして育てたジャガイモを収穫する。収穫したジャガイモは、太陽にあたり変色しているものや芽の出ているものをとりのぞくなど処理をして園内に保管する。 6月28日の年長カレーづくりに使用する。 
	(取組日) 令和 6年 6月21日 ～ 令和6年 6月21日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 5歳児が埼玉県加須市にある東部給食センターへ観光バスで見学に行く。調理施設・生産レーンなどを見学し、給食ができるまでの説明を受ける。大きな調理道具を使用していること、大勢の方が調理に関わっていること、野菜など新鮮な食材の調理法など様子をじっくり観察する。残食は廃棄するのではなく、ぶたの飼料に使用するなどフードロスを出さないようにしていることなどを映像を通して知る。説明や映像視聴の後に、当日の幼児給食を食べながら、今日の給食メニューについてや給食についての栄養士の話聞く。最後に給食を作ってくれている方々へ感謝状をお渡しする。見学後の給食で子どもたちの様子が変わり、残さず食べようとする意欲が高まり、好き嫌いも少なくなる。 
	(取組日) 令和6年 6月28日 ～ 令和6年 6月28日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 5歳児がカレーづくり、全園児に提供する。人参、ジャガイモ、玉ねぎ、肉、カレールーを材料に調理する。ジャガイモは年中の時に屋上で育てたものを収穫し使用する。三角巾をかぶり、エプロンをして材料をビュラーでむき、包丁で切るなどしてカレーづくりに挑戦。各クラス3グループ、合計9グループに分かれ調理。各グループに保育者が1名つき、指導と安全の確保に努める。カレーは寸胴で調理した後9つの鍋にわけ、各クラスと職員室に配膳、自分のクラスではご飯を入れたお弁当箱にカレーをよそう。温かくておいしいカレーとよい香に食欲をそられ、おかわりが続出。野菜嫌いの子が喜んで食べている姿も見られた。カレーの絵本、ままごとセットも活用する。 
	(取組日) 令和6年10月10日 ～ 令和6年10月10日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 満3歳児が6月12日に保育者が種植えし、屋上菜園で育てたサツマイモを収穫する。3～5歳児は観光バスで遠足に行き、いもほりを体験するが、満3歳児は体力を考慮し、園で行う。土の中の虫を怖がる様子もあったが、土の中からサツマイモが見え始めると嬉しそうに土を掘っていた。2人ずつ協力して1株抜き、うれしそうな表情や収穫の達成感を味わっていた。場所により、いもの大きさが異なり、形も違っていて、おもしろい形のおいもを見せ合って喜ぶ姿が見られた。その後、給食で出たサツマイモにも興味を持っていた。自然(土)に触れる体験、葉の形、イモの感触や形の違いを肌で実感した。 
	(取組日) 令和6年10月23日 ～ 令和7年 2月20日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 4歳児での栽培活動。10月23日に屋上菜園で大根の種まきをし、葉ののび、成長する姿を観察し、2月20日に収穫する。 土の中で育つ大根の収穫を楽しみに待ち、一人1本大根を抜く、なかなか抜けなかったり、いろいろな大きさ・形の大根が土からでてきて、収穫した大根を抱え、大喜びだった。 クラスに戻り、収穫した大根の観察画を描く。 大根は家庭に持ち帰り、味わう。 
	(取組日) 令和6年11月24日 ～ 令和6年11月24日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 4歳児がお米作りで連携している秋田の農家から送られたお米で塩にぎりづくりを体験する。母親ボランティアが炊いてきてくれたお米を使用する。出来立ての新米をラップで包み2個ずつおにぎりを作る。家庭で練習してきた園児もいる。出来上がったおにぎりを昼食にみんなで食べる。自分で作ったおにぎりからほとんどの園児が食べたので、家庭弁当のおかずが残った。甘いお米の味をかみしめ、楽しそうに食べていた。自分たちが育ててくれたお米のおいしさを味わい、うま栽培できなかった悔しさとともにお米を贈ってくれた農家やおにぎりづくりを手伝ってくれた母親たちへの感謝の気持ちが育った。 

3 取組概要	(取組日) 令和6年12月 6日 ～ 令和6年12月 6日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 5歳児がもちつきをし、ついた餅を食べる。 釜に蒸籠、うすきね、こね器などもちつき道具をそろえ、もちごめから餅が出来るまでを体験。5歳児は餅をつき、餅をきなこと醤油で食べる。餅の成型は年長の保護者役員がお手伝い。三角巾をして、きねを一生懸命ふるいもちつきをする子どもたち。日本の文化に触れる。満3、3、4歳児はその様子や餅ができるまでを観察する。 誤嚥防止から満3、3、4歳児は餅を食べずに、クラスに飾る鏡餅を餅に触れながら作る。衛生面に配慮し、もちつきやもちの感触を体験。食・食文化への興味・関心が広がる。母親ボランティアによるあたたかいみそ汁も全園児に提供され、作り手への感謝の気持ちも育まれた。 
	(取組日) 令和6年12月10日 ～ 令和6年12月10日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 全園児対象。いどう果樹園。園庭でのみかん狩り体験。姉妹園のめいしょう幼稚園と合同で実施する。園庭にみかんの実を1,400個つけた木々30鉢が並ぶ。園児1人当たり3個のみかんを収穫。満3歳・3歳児は、取り方の説明を聞き、収穫。4、5歳児は農家の方からみかんが出来るまでのおはなしをホールで聞いてからみかん狩りをする。5歳児はおいしいみかんの見分け方を聞き、慎重にみかんを収穫する姿が見られた。みかんの木々、葉、なり方を観察し、みかんをもいで、1つは園で食べ、2つを家庭に持ち帰る。自分がとったあまいみかんに大喜びで満足そうに食べていた。家で保護者にみかんの話をしながら食べた。みかん狩り体験により食への興味・関心、意欲が高まった。 
	(取組日) 令和7年 3月 7日 ～ 令和7年 3月 7日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 4歳児が屋上菜園にジャガイモの種植えをする。 保育者の説明を聞きながら、切り口に灰をつけ、切り口を下に向け一人1個ずつ植える。土は保育者が事前に耕し、畝をつくり、植える場所を作っておいた。 ジャガイモは成長観察し、年長となった6月に収穫し、カレーづくりに使用する。 写真なし。
	(取組日) 令和7年 3月11日 ～ 令和7年 3月14日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 全園児対象の活動。毎週金曜日に家庭からのお弁当を作ってくれたお母さん、お父さんに感謝状を贈る。感謝状はありがたい感謝のこたばを書いて印刷した。4、5歳児は名前や感謝の言葉を手書きした。 感謝状には、お弁当をうれしそうに食べる子どもの写真を入れ、家庭弁当の最終日もしくは修了式に手渡した。 感謝の気持ちを形で示す。 うれしそうに受け取る保護者の姿が見られた。 写真なし。
	(取組日) 令和6年 4月1日 ～ 令和7年 3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 月刊誌、季刊誌を活用する。栽培計画をたてる。 月刊誌「やさいの時間」をNHKの放送視聴と併用して購読。プランターでの育て方や季節ごとの栽培物などを検討する際に参考とする。 年4回発行の季刊誌「いただきますごちそうさま」は幼児施設における食育雑誌でいろいろな園の活動例や季節の食育トピックスなどが掲載され、食育活動を考える上での参考とした。 こうした雑誌などを参考にしながら、次年度の栽培計画を年度末の次年度準備のための出勤時3月24日～31日に教職員で話し合う。 年齢ごとに何を育てるか計画をたてる。 
	(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの

効果検証報告書

施設名	明昭第二幼稚園		
教育理念	○一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体とやさしい心、人と関わる力、たくましさ育てる。○遊びを中心に子どもの主体性を大切に一人ひとりの個性、発達の姿に応じた援助・保育をする。		
事業の区分(5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現		
1 事業名	野菜の栽培などを中心とした食育に重点を置いた保育		
2 事業概要	屋上菜園でジャガイモ、サツマイモ、ダイコンを、各学年・クラスでトマト、きゅうりなどの夏野菜、ピーマン、枝豆をプランター栽培・観察・収穫する。5歳児はカレーづくり、給食センター見学、地域商店街のメロン育て隊に参加しメロンを栽培・収穫、もちつきを体験する。4歳児は苗からお米を育て、おにぎり作りをする。全園児対象に保護者がみそ汁を提供、移動果樹園を利用し園でみかん狩りを体験。家庭弁当を作る母親への感謝状を贈る。食育関連の絵本・教材に親しむ。		
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 担任、教職員、保護者ボランティア(役員)、地域商店街の方々、秋田の米農家、園児が携わる。他施設、事業のスタッフがかわる。屋上菜園やプランターで野菜を栽培。カレーづくりを実施。もちつき、みそ汁提供、おにぎりづくりでは鍋、ガス、ガスコンロ、うす、きね、炊飯器などを準備、保護者ボランティアが参加。外部施設・事業では給食センター見学、移動果樹園(園庭でみかん狩り)を利用。グローバルキッズによるお米作りプロジェクト、地域商店街のメロン育て隊に給食センターの方々、毎週お弁当をつくってくれた母親への感謝状を作成する。 食育関連の絵本・教材(もの)を購入。毎月、少年写真新聞社きゅうしょくニュースを掲示する。	
	事業後 3についての効果・検証	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ・栽培物は準備や時期、経験する年齢などバランスの良い活動ができた。収穫など一定の成果が得られた。ジャガイモの栽培・収穫とカレーづくり、お米づくり(栽培)からおにぎりづくりの経験のつながりは、育てる苦労や育てたものへの愛着を育み、食の喜びも感じられた。 ・保護者の参加活動(もちつき、おにぎりづくり、みそ汁)、お弁当づくり、給食センター見学は作り手への感謝の気持ちを育む。メロン育て隊参加は地域の助けを借り、交流が生まれる。 ・育てることで農家の方の苦労を知り、食べ物を大切にする気持ちが育つ。 ・絵本、掲示物などを通して食への興味・関心が高まる。	
計画時	4 事業のねらい	・食育を通して健康な体づくりをする。 ・楽しく食べることや栽培、絵本や紙芝居、パネルシアター、ままごとセットなどを用い、食への興味・関心を深め、食への意欲を高める。 ・食べ物を食べることを通し、生命を尊重し、いただきます、ごちそうさまの精神を学ぶ。食べ物を無駄にしない、大切にすることで食品ロスをなくすなどSDGsの問題を考えられるようになる。 (カレーづくり、おにぎりづくりなど) ・食事のマナーを身につける。(食育関連教材使用) ・給食センター見学などを通して、食事を提供してくれる人やお弁当を作ってくれる母親への感謝の気持ちを育む。	
	事業後 4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・健康な体づくりの効果は検証が困難だが、食べる楽しさや食への興味・関心が増し、食べる意欲が高まるなど健康な体づくりにつながる活動ができた。 ・生命を尊重し、食べ物を無駄にしない態度はプランターで育ったトマトやきゅうり、メロンを大切に慈しみ、クラスで分けて食べる姿に現れた。栽培体験とともに「いただきます」、「ごちそうさま」の毎食ごとのあいさつにより自然や食への感謝の気持ちが育まれた。 ・給食センター見学、お米作り体験、みかん狩りを通し作り手への感謝の気持ちが強まり、感謝状を渡し、感謝の気持ちを表すことができた。食のマナーに取り組むことが今後の課題である。	

5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ・4月下旬～7月中旬 地域のメロンづくりに参加。観察、収穫。匂いを嗅いだりし、味わう。 ・5月中旬～7月に3、4、5歳児がプランターでトマト、キュウリ、ピーマンなどの野菜を苗から栽培する。観察、収穫後に食べたり、野菜スタンプなどに活用する。 ・6月初旬、5歳児が東部給食センターに観光バスで施設見学、6月下旬、5歳児が屋上で収穫したジャガイモを使用し、カレーライスづくりをし、全園児にふるまう。 ・9月下旬～10月初旬 満3歳児が屋上菜園で育てたサツマイモ堀りをする。 ・10月～2月、4歳児が屋上菜園でダイコンを栽培し、観察、収穫をし、家庭に持ち帰る。 ・12月 移動果樹園、園庭でのみかん狩り、5歳児もちつき体験、保護者によるみそ汁提供。 ・米作り農家と連携し、お米の生育過程を観察、農家からのお米で園児がおにぎりづくりをする。 ・食に関する絵本、紙芝居、パネルシアター、教材を用い、園児の食への興味・関心を深める。
事業後	5についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 園庭・プランターを利用した栽培は時期を考慮し、各学年バランスよく体験でき、観察と収穫の喜びを味わえた。トマト、きゅうりは園児が食し、大根は家庭に持ち帰る。4歳児から育てたジャガイモは5歳児のカレー作りに利用し、食材に対する愛着も湧き、野菜嫌いな園児がおいしそうに食べる姿が見られた。給食センター見学や保護者のみそ汁提供では作り手への感謝の気持ちが育ち、給食センター見学後は残食が減る。おにぎりづくり体験、みそ汁提供はお弁当を作る母親への感謝の気持ちを育み感謝状作成に、メロン育て隊参加は地域との交流や地産地消につながる。お米づくりやみかん狩りは育てる農家の大変さを知る機会となり、食べ物を大切にする気持ちが育つ。絵本などを通して食への興味・関心が広がり深まった。活動全体を通し、食の楽しさと喜びを味わえた。食のマナーなども身につけられるようにしたい。

計画時	6 環境構成 ・地域のメロンづくりでは、クラスに1鉢苗と土のセットを購入。 ・各年齢ごとにクラス前でプランターでトマト、キュウリ、ピーマン、オクラなどの苗を購入し、育てる。観察、収穫し、食べたり、野菜スタンプなどに利用する。 ・5歳児カレーづくり、もちつきでは園児はエプロン、三角巾をし、調理などする。材料や燃料(ガス)、寸胴、鍋、杓、うすなどの道具類を用意。カレーは全園児にふるまい、餅は食べる。 ・5歳児が東部給食センター見学。観光バス2台で行く。施設見学、給食を食べ栄養士の話聞き感謝状を渡す。お弁当をつくってくれる母親やみかん農家、お米農家にも感謝状を用意。 ・屋上菜園で満3歳児が10月前後にいもほりをするためのサツマイモを種いもを植え栽培。 ・他にも職員で観察用に野菜を育て、土、苗や種を購入する。 ・4歳児ダイコンの種まきと収穫。野菜スティックにして食べる。農家の方に助言をいただく。 ・移動果樹園みかん狩りを申し込む。みかん農家の話を聞き、園庭に並んだみかんの木からみかんを獲り、食べる。 ・栽培に必要な種、苗、土、肥料、プランター、道具類など使用する。 ・絵本、紙芝居、パネルシアター、教材を都度利用する。
事業後	6についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 ・野菜の栽培は担当の職員チームを編成し、栽培年間計画を立てたので。育てやすく、葉や実方に特長のある野菜を適時栽培できた。収穫物は年少児は野菜スタンプに、年中児はダイコンの描画、年長児はカレーづくりに活かすなど様々な活動につなげることができた。年中のお米作りもおにぎりづくりにつなげ、みそ汁づくりは保護者にお手伝いをお願いすることで、家庭でも園児がおにぎりづくりの練習をしたり、みそ汁を作ったりし、食育活動が広がった。栽培による成長観察や食育関連の絵本により食への興味・関心、栽培物への知識も得ることができた。 ・作り手へ送った感謝状を通して、感謝の気持ちを形にすることができた。

7 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・野菜の栽培を通して、観察、収穫し、食べることで、育てる苦労や食べ物の大事さを知り、食に対する興味や関心を持ち、食べる意欲が育つ。 ・様々な野菜の成長に興味を持ち、他の野菜を育てようとする意欲が芽生える。 ・カレーづくりやみかん狩り、お米づくり、給食や家庭弁当を通して、生産者や料理の作り手への感謝の気持ちが育まれる。 ・地域の人に助けられメロンづくりをすることで地域交流や感謝の気持ちが育まれる。 ・食事の仕方、マナーなどを知り、正しい食習慣を身につけられるようになる。 ・もちつきを通して食文化にふれ、興味や関心を持つ。
事業後	7についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 ・栽培を通し、育てる大変さや自然の恵みのありがたさを知り、食の大切さ、食に対する興味・関心、収穫物への愛着が深まった。栽培、調理過程を見たり、調理経験をする中で食べる意欲や食品を無駄にしない意識や作り手への感謝の気持ちが芽生えた。感謝状を贈り形にできた。 ・他学年がプランター野菜や屋上菜園の栽培物を目にしたり、育ててみようとする意欲が育つ。 ・メロンづくりを通して地域交流が生まれ、地域の方への感謝の気持ちが育った。 ・食事の仕方、マナーはあまり伝えることができなかった。次年度の課題である。
8 効果検証 総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 年間栽培計画をたて、プランター、屋上菜園を利用し有意義な体験ができた。他学年の栽培物を見ることで興味・関心も深まった。食や栽培に関する絵本なども役立ち、栽培する意欲も育っていった。自分たちが育てた野菜を嬉しそうに収穫し、大事そうにみんなで分けて食べることで食べ物への愛着が生まれ、大切に作る気持ちが育ったようだ。 5歳児はカレーづくり、もちつきなど、作り手となる体験により食への興味・関心が一層高まった。みそ汁提供、おにぎりづくりでは温かいものを食べる貴重な体験ができた。作り手・生産者への感謝の気持ちは給食センター見学、保護者のみそ汁提供、お米づくり、みかん狩りなどで育まれていた。またお弁当をつくってくれた保護者への感謝の気持ちを感謝状を贈ることで形にできた。満3歳児も他クラスの栽培物を見たり、屋上でサツマイモ掘りなどの食育体験ができた。4歳児のお米作りとおにぎりづくりは、秋田の農家と母親の協力により、栽培からおにぎりづくりにつながる長期間の体験ができた。次年度は今年度できなかった食のマナーについても食育活動で取り組んでいきたい。